

令和7年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	Café BORDER 運営事業
事業主体 (連絡先)	特定非営利活動法人NPOえんしょく (理事長：増永勝 080-6649-9922)
事業区分	(2) 保健、医療、福祉の充実に係る事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	6,179,500 円 (うち支援金： 4,133,000 円)

事業内容

地域に暮らす一人ひとりの経済的貧困、精神的貧困と真に向き合うためには、日常生活圏域に「逃げたい時に逃げられる」「繋がりたい時に繋がれる」常設の居場所が必要だと考え、空き家を改修し拠点を整備。

拠点では以下の取組を実施。

- ・孤食を防ぐための「みんなで調理、みんなで食事(多世代交流)」。
- ・子ども食堂、おさがり会の実施。
- ・ボードゲームや勉強コーナー、本棚の常設による居場所としての開放。
- ・完全予約制「応援居酒屋」の開催。
- ・食育ボランティア参加により年配者への居場所提供。

また、食育や自己肯定感を自然と持てるような取り組みとして、上記整備拠点到隣接する自然農園なかむら(水田5反、畑3反)にて稲作、大豆(収穫から味噌醤油づくりまで)、夏野菜(トマト、なす、ズッキーニ)などの剪定、手入れと収穫を利用している子ども達と行った。

事業効果

拠点を整備し、取組を実施したことで、常設した居場所として定着することができた。また、不登校児の日中の居場所・学習機会の確保や地域での孤食防止につながった。

①拠点利用

令和7年10月～令和8年3月 50人以上/月が利用

②不登校児の利用

令和7年10月～令和8年3月延べ12回実施

③独居世帯の利用

令和7年10月～令和8年3月延べ72人が利用

稲作、大豆、夏野菜などの剪定・手入れ・収穫を通して食の大切さや自分たちで育てることができる達成感を子ども達が感ずることできた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。(今後の事業展開、取組の継続に向けた財源確保など)。

- ・週一回ではなく、ボランティアを募り常設の子ども食堂にしていきたい
- ・近隣の吉田小学校コミュニティスクールと密に連携して不登校児を参加させていきたい
- ・多世代交流イベントを増やしたい

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



【子ども食堂の様子】

【目標・ねらい】

- ① 貧困の緩和
- ② 孤食の解消
- ③ 不登校児の居場所づくり
- ④ 多世代交流

※自己評価【 B 】

【理由】

拠点整備により不登校児の居場所づくりや孤食の解消、多世代交流を行うことができる環境を整え、参加人数の対目標は達成することはできたが、貧困の解消等には時間がかかることもあり今年度事業だけでは解消とは程遠いと考えたため。引き続き取組を実施していき、貧困の解消等を目指していきたい。